

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
	第1章 土工	第1章 土工
	項目の追加	
	<ul style="list-style-type: none"> ① 土量変化率等…………… II-1-①-1 1 土量の変化…………… II-1-①-1 2 土量変化率…………… II-1-①-1 3 適用土質及び機械損料補正…………… II-1-①-2 4 土質区分の対応…………… II-1-①-2 5 岩質の判定基準…………… II-1-①-4 ② 土工…………… II-1-②-1 ②-1 土工 1 適用範囲…………… II-1-②-1 2 施工概要…………… II-1-②-3 3 施工パッケージ…………… II-1-②-7 4 施工単価入力基準表…………… II-1-②-30 ②-2 土工(ICT)…………… II-1-②-37 1 適用範囲…………… II-1-②-37 2 施工概要…………… II-1-②-37 3 施工パッケージ…………… II-1-②-38 4 ICT建設機械経費加算額…………… II-1-②-44 5 その他ICT建設機械経費等…………… II-1-②-44 6 施工単価入力基準表…………… II-1-②-45 ③ 作業土工…………… II-1-③-1 ③-1 床掘工…………… II-1-③-1 1 適用範囲…………… II-1-③-1 2 施工概要…………… II-1-③-2 3 施工パッケージ…………… II-1-③-4 4 施工単価入力基準表…………… II-1-③-8 ③-2 埋戻工…………… II-1-③-9 1 適用範囲…………… II-1-③-9 2 施工概要…………… II-1-③-9 3 施工パッケージ…………… II-1-③-9 4 施工単価入力基準表…………… II-1-③-12 ④ 人力運搬工…………… II-1-④-1 1 適用範囲…………… II-1-④-1 2 施工パッケージ…………… II-1-④-2 3 施工単価入力基準表…………… II-1-④-10 ⑤ 人力土工(ベルトコンベヤ併用)…………… II-1-⑤-1 1 適用範囲…………… II-1-⑤-1 2 施工概要…………… II-1-⑤-1 3 施工パッケージ…………… II-1-⑤-2 4 施工単価入力基準表…………… II-1-⑤-5 ⑥ 安定処理工…………… II-1-⑥-1 ⑥-1 安定処理工…………… II-1-⑥-1 1 適用範囲…………… II-1-⑥-1 2 施工概要…………… II-1-⑥-1 3 施工パッケージ…………… II-1-⑥-2 4 施工単価入力基準表…………… II-1-⑥-4 ⑥-2 安定処理工(自走式土質改良工)…………… II-1-⑥-5 1 適用範囲…………… II-1-⑥-5 2 施工概要…………… II-1-⑥-5 3 自走式土質改良機設置・撤去工…………… II-1-⑥-5 4 土質改良工…………… II-1-⑥-6 5 単価表…………… II-1-⑥-7 6 施工単価入力基準表…………… II-1-⑥-8 ⑦ 土砂運搬工(不整地運搬車による運搬)…………… II-1-⑦-1 1 適用範囲…………… II-1-⑦-1 2 施工概要…………… II-1-⑦-1 3 機種を選定…………… II-1-⑦-1 4 機械の施工歩掛…………… II-1-⑦-1 5 単価表…………… II-1-⑦-3 6 施工単価入力基準表…………… II-1-⑦-4 	<ul style="list-style-type: none"> ① 土量変化率等…………… II-1-①-1 1 土量の変化…………… II-1-①-1 2 土量変化率…………… II-1-①-1 3 適用土質及び機械損料補正…………… II-1-①-2 4 土質区分の対応…………… II-1-①-2 5 岩質の判定基準…………… II-1-①-4 ② 土工…………… II-1-②-1 ②-1 土工 1 適用範囲…………… II-1-②-1 2 施工概要…………… II-1-②-3 3 施工パッケージ…………… II-1-②-7 4 施工単価入力基準表…………… II-1-②-30 ②-2 土工(ICT)…………… II-1-②-37 1 適用範囲…………… II-1-②-37 2 施工概要…………… II-1-②-37 3 施工パッケージ…………… II-1-②-38 4 ICT建設機械経費加算額…………… II-1-②-44 5 その他ICT建設機械経費等…………… II-1-②-44 6 施工単価入力基準表…………… II-1-②-45 7 参考資料(掘削(ICT) ※[ICT建機使用割合100%])…………… II-1-②-47 ③ 作業土工…………… II-1-③-1 ③-1 床掘工…………… II-1-③-1 1 適用範囲…………… II-1-③-1 2 施工概要…………… II-1-③-2 3 施工パッケージ…………… II-1-③-4 4 施工単価入力基準表…………… II-1-③-8 ③-2 埋戻工…………… II-1-③-9 1 適用範囲…………… II-1-③-9 2 施工概要…………… II-1-③-9 3 施工パッケージ…………… II-1-③-9 4 施工単価入力基準表…………… II-1-③-12 ④ 人力運搬工…………… II-1-④-1 1 適用範囲…………… II-1-④-1 2 施工パッケージ…………… II-1-④-2 3 施工単価入力基準表…………… II-1-④-10 ⑤ 人力土工(ベルトコンベヤ併用)…………… II-1-⑤-1 1 適用範囲…………… II-1-⑤-1 2 施工概要…………… II-1-⑤-1 3 施工パッケージ…………… II-1-⑤-2 4 施工単価入力基準表…………… II-1-⑤-5 ⑥ 安定処理工…………… II-1-⑥-1 ⑥-1 安定処理工…………… II-1-⑥-1 1 適用範囲…………… II-1-⑥-1 2 施工概要…………… II-1-⑥-1 3 施工パッケージ…………… II-1-⑥-2 4 施工単価入力基準表…………… II-1-⑥-4 ⑥-2 安定処理工(自走式土質改良工)…………… II-1-⑥-5 1 適用範囲…………… II-1-⑥-5 2 施工概要…………… II-1-⑥-5 3 自走式土質改良機設置・撤去工…………… II-1-⑥-5 4 土質改良工…………… II-1-⑥-6 5 単価表…………… II-1-⑥-7 6 施工単価入力基準表…………… II-1-⑥-8 ⑦ 土砂運搬工(不整地運搬車による運搬)…………… II-1-⑦-1 1 適用範囲…………… II-1-⑦-1 2 施工概要…………… II-1-⑦-1 3 機種を選定…………… II-1-⑦-1 4 機械の施工歩掛…………… II-1-⑦-1 5 単価表…………… II-1-⑦-3 6 施工単価入力基準表…………… II-1-⑦-4
第1章 土工 目次 (P7)		

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
Ⅱ-1-②-2	<p>1-2 適用出来ない範囲(積算基準書等により別途計上するもの)</p> <p>1-2-1 掘削</p> <p>(1) 海上・水上作業におけるクラムシェル水中掘削積込</p> <p>(2) クラムシェルによる床掘り(作業土工)</p> <p>(3) 深礎工、鋼管矢板基礎工、共同溝工、地すべり防止工におけるクラムシェル掘削積込</p> <p>(4) 河川堤防に布設する光ケーブル配管工事の掘削(土の状態を問わない)を行う場合</p> <p>(5) 掘削(砂防)</p> <p>(6) 情報ボックス工の設置工事の掘削</p> <p>(7) 掘削(トンネル工)</p> <p>(8) 電線共同溝工事における掘削</p> <p>(9) 砂防、ダム、トンネルの本体工事の岩掘削及び水中掘削</p> <p>(10) 3D-MG及びMCバックホウによる土砂、岩塊・玉石の掘削積込</p> <p>(11) 3D-MG及びMCバックホウによる土砂の片切掘削</p> <p>1-2-2 土砂等運搬</p> <p>(1) 土砂等運搬(砂防)</p> <p>(2) 河床等沈殿物、底沼等軟弱土を除去した後の運搬作業</p> <p>(3) 機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬</p> <p>1-2-3 整地</p> <p>(1) 締固めを含む場合</p> <p>1-2-4 路体(築堤)盛土</p> <p>(1) 路床盛土工</p> <p>(2) 3D-MG及びMCブルドーザによる土砂等を使用した路体(築堤)盛土</p> <p>1-2-5 路床盛土</p> <p>(1) 凍上抑制層を有する場合</p> <p>(2) 路体盛土工</p> <p>(3) 3D-MG及びMCブルドーザによる土砂等を使用した路床盛土</p> <p>1-2-6 押土(ルーズ)</p> <p>(1) 地山の掘削を伴う押土の場合</p> <p>(2) 押土(ルーズ)(砂防)</p> <p>1-2-7 積込(ルーズ)</p> <p>(1) 地山を掘削した土砂等を直接運搬車両等に投入する場合</p> <p>(2) 積込(ルーズ)(砂防)</p> <p>(3) 人力による積込み</p> <p>1-3 適用出来ない範囲(別途考慮するもの)</p> <p>1-3-1 土砂等運搬</p> <p>(1) 自動車専用道路を利用する場合</p> <p>(2) 運搬距離が60kmを超える場合</p>	<p>1-2 適用出来ない範囲(積算基準書等により別途計上するもの)</p> <p>1-2-1 掘削</p> <p>(1) 海上・水上作業におけるクラムシェル水中掘削積込</p> <p>(2) クラムシェルによる床掘り(作業土工)</p> <p>(3) 深礎工、鋼管矢板基礎工、共同溝工、地すべり防止工におけるクラムシェル掘削積込</p> <p>(4) 河川堤防に布設する光ケーブル配管工事の掘削(土の状態を問わない)を行う場合</p> <p>(5) 掘削(砂防)</p> <p>(6) 情報ボックス工の設置工事の掘削</p> <p>(7) 掘削(トンネル工)</p> <p>(8) 電線共同溝工事における掘削</p> <p>(9) 砂防、ダム、トンネルの本体工事の岩掘削及び水中掘削</p> <p>(10) 3D-MG及び又はMCバックホウによる土砂、岩塊・玉石の掘削積込</p> <p>(11) 3D-MG及び又はMCバックホウによる土砂の片切掘削</p> <p>1-2-2 土砂等運搬</p> <p>(1) 土砂等運搬(砂防)</p> <p>(2) 河床等沈殿物、底沼等軟弱土を除去した後の運搬作業</p> <p>(3) 機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬</p> <p>1-2-3 整地</p> <p>(1) 締固めを含む場合</p> <p>1-2-4 路体(築堤)盛土</p> <p>(1) 路床盛土工</p> <p>(2) 3D-MG及び又はMCブルドーザによる土砂等を使用した路体(築堤)盛土</p> <p>1-2-5 路床盛土</p> <p>(1) 凍上抑制層を有する場合</p> <p>(2) 路体盛土工</p> <p>(3) 3D-MG及び又はMCブルドーザによる土砂等を使用した路床盛土</p> <p>1-2-6 押土(ルーズ)</p> <p>(1) 地山の掘削を伴う押土の場合</p> <p>(2) 押土(ルーズ)(砂防)</p> <p>1-2-7 積込(ルーズ)</p> <p>(1) 地山を掘削した土砂等を直接運搬車両等に投入する場合</p> <p>(2) 積込(ルーズ)(砂防)</p> <p>(3) 人力による積込み</p> <p>1-3 適用出来ない範囲(別途考慮するもの)</p> <p>1-3-1 土砂等運搬</p> <p>(1) 自動車専用道路を利用する場合</p> <p>(2) 運搬距離が60kmを超える場合</p>

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

表3.1 掘削 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無					
土砂	オープンカット	-	有り	-	普通土30,000m3未満 又は湿地軟弱土	-	-	-					
					普通土30,000m3以上	-	-	-					
					50,000m3未満	-	-	-					
					50,000m3以上	-	-	-					
	片切掘削	-	-	-	-	-	-	-					
					-	-	-	-					
	水中掘削	-	-	-	-	-	-						
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-					
	上記以外(小規模)	-	-	-	標準(※1)	-	-	-					
					標準以外(※2)	-	-	-					
岩塊・玉石	オープンカット	-	有り	-	普通土30,000m3未満 又は湿地軟弱土	-	-	-					
					普通土30,000m3以上	-	-	-					
					50,000m3未満	-	-	-					
					50,000m3以上	-	-	-					
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-					
					-	-	-	-					
現場制約あり	-	-	-	-	-	-							
軟岩	オープンカット	-	-	無し	500m3未満	-	無し	無し 有り					
						有り(50,000m3未満)	無し	無し					
						有り(50,000m3以上)	無し	無し					
					500m3以上	-	無し	無し 有り					
						-	有り(50,000m3未満)	無し	無し				
						-	有り(50,000m3以上)	無し	無し				
	片切掘削	-	-	-	-	-	無し	無し 有り					
						-	有り(50,000m3未満)	無し	無し				
						-	有り(50,000m3以上)	無し	無し				
						現場制約あり	軟岩(I)	-	-	-	-	-	-

施工数量区分
10,000m3の追加

表3.1 掘削 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無					
土砂	オープンカット	-	-	無し	普通土30,000m3未満 又は湿地軟弱土	-	-	-					
					普通土30,000m3以上	-	-	-					
					10,000m3未満	-	-	-					
					10,000m3以上 50,000m3未満	-	-	-					
					50,000m3以上	-	-	-					
					10,000m3未満	-	-	-					
	片切掘削	-	-	-	-	-	-	-					
						-	-	-	-				
						-	-	-	-				
						-	-	-	-				
						-	-	-	-				
						-	-	-	-				
岩塊・玉石	オープンカット	-	-	無し	普通土30,000m3未満 又は湿地軟弱土	-	-	-					
					普通土30,000m3以上	-	-	-					
					10,000m3未満	-	-	-					
					10,000m3以上 50,000m3未満	-	-	-					
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-					
					-	-	-	-					
現場制約あり	-	-	-	-	-	-							
軟岩	オープンカット	-	-	無し	500m3未満	-	無し	無し 有り					
						有り(50,000m3未満)	無し	無し					
						有り(50,000m3以上)	無し	無し					
					500m3以上	-	無し	無し 有り					
						-	有り(50,000m3未満)	無し	無し				
						-	有り(50,000m3以上)	無し	無し				
	片切掘削	-	-	-	-	-	無し	無し 有り					
						-	有り(50,000m3未満)	無し	無し				
						-	有り(50,000m3以上)	無し	無し				
						現場制約あり	軟岩(I)	-	-	-	-	-	-

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

6. 施工数量, 破砕片除去数量

①施工数量は「小規模」を除き, 1工事当りの数量とする。

表3. 1の条件区分「施工数量」, 「破砕片除去の有無」に示す数量区分は, 1工事当りの取扱い土量で判断する。1工事当りの取扱い土量は, 掘削, 掘削(ICT), 積込(ルーズ)の施工数量を表3. 2の数量区分の規格別に「○」及び「●」の項目を条件区分によらず全て合計した土量とする。なお, これにより難い場合は別途考慮する。

表3. 2 1工事当りの取扱い数量について

名称	条件区分					施工数量, 破砕片除去数量区分		
	土質	施工方法	押土	破砕片除去	集積押土	500m3	30,000m3	50,000m3
掘削	土質	オープンカット	有	-	-		○	
			無	-	-			
	土砂	片切掘削	-	-	-			
			-	-	-			
	岩塊・玉石	オープンカット	有	-	-		○	
			無	-	-			
掘削 (ICT)	軟岩	オープンカット	有	無		○		●
			無	有		○		
	片切掘削	有	無					●
		無	有					
	硬岩	オープンカット	有	無				●
			無	有				
片切掘削	有	無					●	
掘削 (ICT)	土砂	オープンカット	-	-	-			○
		片切掘削	-	-	-			
積込 (ルーズ)	岩塊・玉石	オープンカット	-	-	-			○
		-	-	-				

※施工数量: ○, 破砕片除去数量: ●

- ②施工方法「上記以外(小規模)」の施工数量における「1箇所」とは, 目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり, 目的物が連続している場合は, 連続している区間を1箇所とする。
- ③湿地軟弱土での作業の施工数量は, 1工事当りの取扱い土量に含めない。
- ④土質「軟岩」, 「硬岩」における床掘平均掘削幅2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは, 破砕片除去「無」を選択の上, 「3-7 積込(ルーズ)」により別途計上する。
- ⑤掘削(土砂及び岩塊・玉石, オープンカット, 集積押土無)には, 掘削と同時に積込みを含む。

- 7. 火薬の標準的な使用量は, オープンカットでは1日当り含水爆薬13.4 kg, AN-F019.5 kg, 片切掘削では1日当り含水爆薬1.8 kgとし, これにより難い場合は別途計上する。
- 8. 集積押土の有無
 - ①有り: 集積押土の距離は30mまでとする。
- 9. 軟岩床掘の場合
 - 施工数量にかかわらず, 500m3未満を適用するものとする。
- 10. 軟岩又は硬岩の場合で, 盛土等に流用するための小割りに破砕が再度必要となった場合は, 小割りに要する費用は別途考慮する。

①施工数量区分
10,000m3の追加
②ICT建機と通常
機械との施工
数量分割に関する
記載の追加

6. 施工数量, 破砕片除去数量

①施工数量は「小規模」を除き, 1工事当りの数量とする

表3. 1の条件区分「施工数量」, 「破砕片除去の有無」に示す数量区分は, 1工事当りの取扱い土量で判断する。1工事当りの取扱い土量は, 掘削, 掘削(ICT), 積込(ルーズ)の施工数量を表3. 2の数量区分の規格別に「○」及び「●」及び「△」の項目を条件区分によらず全て合計した土量とする。なお, これにより難い場合は別途考慮する。

表3. 2 1工事当りの取扱い数量について

名称	条件区分					施工数量, 破砕片除去数量の数量区分					
	土質	施工方法	押土	破砕片除去	集積押土	A	B	C	D	E	
掘削	土質	オープンカット	有	-	-		○				
			無	-	-				○	△	
	土砂	片切掘削	-	-	-						△
			-	-	-						
	岩塊・玉石	オープンカット	有	-	-			○			
			無	-	-				○	△	
掘削 (ICT)	軟岩	オープンカット	有	無		○		●			
			無	有		○					
	片切掘削	有	無					●			
		無	有								
	硬岩	オープンカット	有	無					●		
			無	有							
片切掘削	有	無						●			
掘削 (ICT)	土砂	オープンカット	-	-	-				○		
		片切掘削	-	-	-					○	
積込 (ルーズ)	岩塊・玉石	オープンカット	-	-	-				○		
		-	-	-							

※1. 数量区分の規格は, 以下のとおりとする。この区分で取扱い土量を判断する。なお, 各取扱い土量は重複して合計しないこと。

- A: ①500m3未満, ②500m3以上
- B: ①30,000m3未満, ②30,000m3以上
- C: ①10,000m3未満, ②10,000m3以上50,000m3未満, ③50,000m3以上
- D: ①10,000m3未満, ②10,000m3以上50,000m3未満, ③50,000m3以上
- E: ①50,000m3未満, ②50,000m3以上

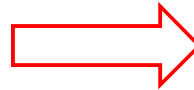
※2. ○: 施工数量, ●: 破砕片除去数量, △: 同一の施工箇所においてICT建機と通常建機を併用して施工する場合で, 通常建機による施工分の施工数量。

- ②掘削(ICT)は, 同一の施工箇所において3D-MG又はMCバックホウ(以下, 「ICT建機」という。)と通常建機(ICT建機を使用しない通常機種のパックホウ)を併用して施工する場合, 両者を合計した掘削土量をその箇所の施工数量とする。
- ③施工方法「上記以外(小規模)」の施工数量における「1箇所」とは, 目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり, 目的物が連続している場合は, 連続している区間を1箇所とする。
- ④湿地軟弱土での作業の施工数量は, 1工事当りの取扱い土量に含めない。
- ⑤土質「軟岩」, 「硬岩」における床掘平均掘削幅2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは, 破砕片除去「無」を選択の上, 「3-7 積込(ルーズ)」により別途計上する。

次頁(Ⅱ-1-②-10-1)
へ移動

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
Ⅱ-1-②-10 -1		<p>②掘削(土砂及び岩塊・玉石, オープンカット, 集積押土無)には, 掘削と同時に行う積込みを含む。</p> <p>7. 火薬の標準的な使用量は, オープンカットでは1日当り含水爆薬13.4kg, AN-F019.5kg, 片切掘削では1日当り含水爆薬1.8kgとし, これにより難い場合は別途計上する。</p> <p>8. 集積押土の有無</p> <p>①有り: 集積押土の距離は30mまでとする。</p> <p>9. 軟岩床掘の場合 施工数量にかかわらず, 500m³未満を適用するものとする。</p> <p>10. 軟岩又は硬岩の場合で, 盛土等に流用するための小割りに破碎が再度必要となった場合は, 小割りに要する費用は別途考慮する。</p>



前頁から移動

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

(2) 代表機劣材規格

下表機劣材は、当該施工パッケージで使用されている機劣材の代表的な規格である。

(2) 代表機劣材規格

下表機劣材は、当該施工パッケージで使用されている機劣材の代表的な規格である。

表3.3 掘削 代表機劣材規格一覧

土質	項目	代表機劣材規格	施工方法										水中掘削	現場制約あり	
			オープンカット				片切掘削		小規模						
			普通土 30,000 m3未満 又は 埋地 軟弱土	普通土 30,000 m3 以上	50,000 m3 未満	50,000 m3 以上	施工数量		小規模 (標準)	小規模 (標準 以外)					
土砂(岩塊・玉石混り土含む)	機械	ブルドーザ【埋地・排出ガス対策型(第1次基準値)】324級	○												
		ブルドーザ【普通・排出ガス対策型(第1次基準値)】324級													
		バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)】山積0.8m3(平積0.5m3)			○										
		バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)】山積1.4m3(平積1.0m3)				○									
		バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)】山積0.8m3(平積0.5m3)													
		小型バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)】山積0.13m3(平積0.10m3)													
		クラムシユル【直圧ロープ式・クローラ型】平積0.5m3													
		R2													
		R3													
		R4													
労務	-	R1 運転手(特務)	○	○	○	○									
		R2 普通作業員													
		R3													
		R4													
材料	-	Z1 軽油1.2号 バトルール給油	○	○	○	○									
		Z2													
		Z3													
		Z4													
市場単価	S														

表3.3 掘削 代表機劣材規格一覧

土質	項目	代表機劣材規格	施工方法										水中掘削	現場制約あり
			オープンカット				片切掘削		小規模					
			普通土 30,000 m3未満 又は 埋地 軟弱土	普通土 30,000 m3 以上	10,000 m3 未満	10,000 m3 以上	50,000 m3 以上	施工数量		小規模 (標準)	小規模 (標準 以外)			
土砂(岩塊・玉石混り土含む)	機械	ブルドーザ【埋地・排出ガス対策型(第1次基準値)】324級	○											
		ブルドーザ【普通・排出ガス対策型(第1次基準値)】324級												
		バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)】山積0.8m3(平積0.5m3)			○									
		バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)】山積1.4m3(平積1.0m3)				○								
		バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)】山積0.8m3(平積0.5m3)												
		小型バックホウ(クローラ型)【標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)】山積0.13m3(平積0.10m3)												
		クラムシユル【直圧ロープ式・クローラ型】平積0.5m3												
		R2												
		R3												
		R4												
労務	-	R1 運転手(特務)	○	○	○	○								
		R2 普通作業員												
		R3												
		R4												
材料	-	Z1 軽油1.2号 バトルール給油	○	○	○	○								
		Z2												
		Z3												
		Z4												
市場単価	S													

施工数量区分
10,000m3の追加

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

4. 施工単価入力基準表

(1) 掘削

パッケージコード	CB210100	施工単位	m3	入 力 条 件					
施工区分	J 1					J 2	J 3	J 4	J 5
	土質		施工方法		岩質	押土の有無		障害の有無	
各 種	①土砂	①オープンカット	①軟岩(I)	①有り		①無し		①無し	
	②岩塊・玉石	②片切掘削	②軟岩(II)						
	③軟岩	③水中掘削	③中硬岩	②無し		②有り		②有り	
	④硬岩	④現場制約あり	④硬岩(I)						
		⑤上記以外(小規模)							

施工数量区分
10,000m3の追加

J 6	J 7	J 8	J 9
施工数量	火薬使用	破碎除去の有無	集積押土の有無
①普通土 30,000m3 未満又は湿地軟弱土			
②普通土 30,000m3 以上			
③50,000m3 未満			
④50,000m3 以上	①不可	①無し	①無し
⑤小規模(標準)	②可	②有り(50,000m3 未満)	②有り
⑥小規模(標準以外)		③有り(50,000m3 以上)	
⑦500m3 未満			
⑧500m3 以上			

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
- J 1条件で①、②、J 2条件で①を選択した場合に、J 4条件を選択する。
 - J 1条件で①～③、J 2条件で①を選択した場合、または、J 2条件で⑤を選択した場合に、J 6条件を選択する。
 - J 1条件で③、J 2条件で②を選択した場合、または、J 6条件で⑦を選択した場合に、J 8条件、J 9条件を選択する。
 - J 1条件で③、④、J 2条件で①を選択した場合、または、J 4条件で②を選択した場合に、J 5条件を選択する。
 - J 1条件で③、④、J 2条件で④を選択した場合に、J 3条件を選択する。
 - J 1条件で④、J 2条件で①、②を選択した場合に、J 7条件を選択する。
 - J 1条件で④、J 2条件で②を選択した場合、または、J 1条件で④、J 7条件で①を選択した場合に、J 8条件、J 9条件を選択する。
 - J 2条件の②は、J 1条件が①、③、④の場合に選択出来る。
 - J 2条件の③は、J 1条件が①、②の場合に選択出来る。
 - J 2条件の⑤は、J 1条件が①の場合に選択出来る。
 - J 3条件の①、②は、J 1条件が③の場合に選択出来る。また、J 3条件の③、④は、J 1条件が④の場合に選択出来る。
 - J 6条件の①、②は、J 4条件が①の場合に選択出来る。また、J 6条件の③、④は、J 4条件が②の場合に選択出来る。
 - J 6条件の⑤、⑥は、J 2条件で⑤の場合に選択出来る。
 - J 6条件の⑦は、J 1条件が③、J 2条件が①の場合に選択出来る。また、J 6条件の⑧は、J 1条件が③、J 2条件が①、J 5条件が①の場合に選択出来る。
 - J 7条件の②は、J 2条件が①、J 5条件が①の場合、または、J 2条件が②の場合に選択出来る。
 - J 9条件の②は、J 8条件が①の場合に選択出来る。
 - 床掘作業において、J 1条件で③を選択した場合は、J 6条件で⑦を選択するものとする。
 - J 6条件の⑤、⑥は、表3. 1掘削 積算条件区分一覧(注)3. ⑤上記以外(小規模)による。

4. 施工単価入力基準表

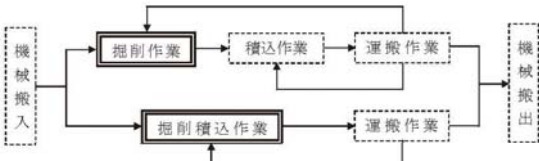
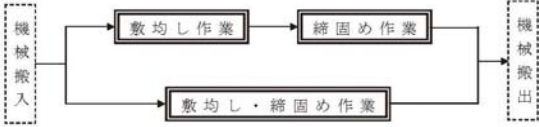
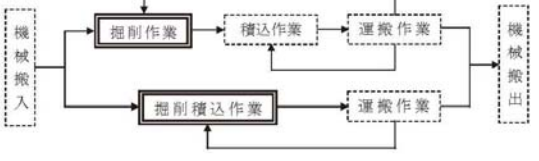
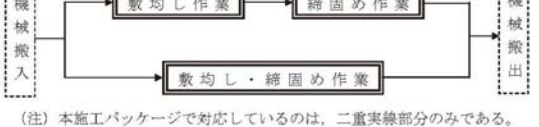
(1) 掘削

パッケージコード	CB210100	施工単位	m3	入 力 条 件					
施工区分	J 1					J 2	J 3	J 4	J 5
	土質		施工方法		岩質	押土の有無		障害の有無	
各 種	①土砂	①オープンカット	①軟岩(I)	①有り		①無し		①無し	
	②岩塊・玉石	②片切掘削	②軟岩(II)						
	③軟岩	③水中掘削	③中硬岩	②無し		②有り		②有り	
	④硬岩	④現場制約あり	④硬岩(I)						
		⑤上記以外(小規模)							

J 6	J 7	J 8	J 9
施工数量	火薬使用	破碎除去の有無	集積押土の有無
①普通土 30,000m3 未満又は湿地軟弱土			
②普通土 30,000m3 以上			
③10,000m3 未満			
④10,000m3 以上50,000m3 未満			
⑤50,000m3 以上	①不可	①無し	①無し
⑥小規模(標準)	②可	②有り(50,000m3 未満)	②有り
⑦小規模(標準以外)		③有り(50,000m3 以上)	
⑧500m3 未満			
⑨500m3 以上			

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
- J 1条件で①、②、J 2条件で①を選択した場合に、J 4条件を選択する。
 - J 1条件で①～③、J 2条件で①を選択した場合、または、J 2条件で⑤を選択した場合に、J 6条件を選択する。
 - J 1条件で③、J 2条件で②を選択した場合、または、J 6条件で④を選択した場合に、J 8条件、J 9条件を選択する。
 - J 1条件で③、④、J 2条件で①を選択した場合、または、J 4条件で②を選択した場合に、J 5条件を選択する。
 - J 1条件で③、④、J 2条件で④を選択した場合に、J 3条件を選択する。
 - J 1条件で④、J 2条件で①、②を選択した場合に、J 7条件を選択する。
 - J 1条件で④、J 2条件で②を選択した場合、または、J 1条件で④、J 7条件で①を選択した場合に、J 8条件、J 9条件を選択する。
 - J 2条件の②は、J 1条件が①、③、④の場合に選択出来る。
 - J 2条件の③は、J 1条件が①、②の場合に選択出来る。
 - J 2条件の⑤は、J 1条件が①の場合に選択出来る。
 - J 3条件の①、②は、J 1条件が③の場合に選択出来る。また、J 3条件の③、④は、J 1条件が④の場合に選択出来る。
 - J 6条件の①、②は、J 4条件が①の場合に選択出来る。また、J 6条件の③、④、⑥は、J 4条件が②の場合に選択出来る。
 - J 6条件の④、⑥、⑦は、J 2条件で⑤の場合に選択出来る。
 - J 6条件の⑧は、J 1条件が③、J 2条件が①の場合に選択出来る。また、J 6条件の⑨は、J 1条件が③、J 2条件が①、J 5条件が①の場合に選択出来る。
 - J 7条件の②は、J 2条件が①、J 5条件が①の場合、または、J 2条件が②の場合に選択出来る。
 - J 9条件の②は、J 8条件が①の場合に選択出来る。
 - 床掘作業において、J 1条件で③を選択した場合は、J 6条件で④を選択するものとする。
 - J 6条件の④、⑥、⑦は、表3. 1掘削 積算条件区分一覧(注)3. ⑤上記以外(小規模)による。

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
II-1-②-37	<p>②-2 土工(ICT)</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、ICTによる土工に適用する。</p> <p>1-1 適用出来る範囲</p> <p>1-1-1 掘削(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCバックホウによる土砂、岩塊・玉石の掘削積込又は3D-MG及びMCバックホウによる土砂の片切掘削</p> <p>1-1-2 路体(築堤)盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザによる施工幅員4.0m以上の土砂等を使用した路体(築堤)盛土</p> <p>1-1-3 路床盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザによる施工幅員4.0m以上の土砂等を使用した路床盛土</p> <p>1-2 適用出来ない範囲</p> <p>1-2-1 掘削(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCバックホウ以外による掘削</p> <p>1-2-2 路体(築堤)盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザ以外による路体(築堤)盛土</p> <p>1-2-3 路床盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザ以外による路床盛土</p> <p>2. 施工概要</p> <p>2-1 施工フロー</p> <p>2-1-1 「掘削(ICT)」</p>  <p>(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 積込、運搬作業が必要な場合は、「第Ⅱ編第1章土工②-1土工」により別途計上すること。</p> <p>2-1-2 「路体(築堤)盛土(ICT)」、「路床盛土(ICT)」</p>  <p>(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。</p>	<p>②-2 土工(ICT)</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、ICTによる土工に適用する。</p> <p>1-1 適用出来る範囲</p> <p>1-1-1 掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%]</p> <p>(1) 3D-MG及びMCバックホウによる土砂、岩塊・玉石の掘削積込、又は、3D-MG及びMCバックホウによる土砂の片切掘削</p> <p>1-1-2 路体(築堤)盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザによる施工幅員4.0m以上の土砂等を使用した路体(築堤)盛土</p> <p>1-1-3 路床盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザによる施工幅員4.0m以上の土砂等を使用した路床盛土</p> <p>1-2 適用出来ない範囲</p> <p>1-2-1 掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%]</p> <p>(1) 3D-MG及びMCバックホウ以外による掘削</p> <p>1-2-2 路体(築堤)盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザ以外による路体(築堤)盛土</p> <p>1-2-3 路床盛土(ICT)</p> <p>(1) 3D-MG及びMCブルドーザ以外による路床盛土</p> <p>2. 施工概要</p> <p>2-1 施工フロー</p> <p>2-1-1 「掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%]」</p>  <p>(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 積込、運搬作業が必要な場合は、「第Ⅱ編第1章土工②-1土工」により別途計上すること。</p> <p>2-1-2 「路体(築堤)盛土(ICT)」、「路床盛土(ICT)」</p>  <p>(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。</p>

ICT建機のみを使用した
施工数量対象への変更

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)																																																	
II-1-②-38	<p>3. 施工パッケージ</p> <p>3-1 掘削(ICT)</p> <p>(1) 条件区分</p> <p>条件区分は、次表を標準とする。</p> <p style="text-align: center;">表3.1 掘削(ICT) 積算条件区分一覧 (積算単位:m³)</p> <table border="1" data-bbox="309 343 1003 593"> <thead> <tr> <th>土質</th> <th>施工方法</th> <th>障害の有無</th> <th>施工数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土砂</td> <td rowspan="4">オープンカット</td> <td rowspan="2">無し</td> <td>50,000m³未満</td> </tr> <tr> <td>50,000m³以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">有り</td> <td>50,000m³未満</td> </tr> <tr> <td>50,000m³以上</td> </tr> <tr> <td>片切掘削</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">岩塊・玉石</td> <td rowspan="4">オープンカット</td> <td rowspan="2">無し</td> <td>50,000m³未満</td> </tr> <tr> <td>50,000m³以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">有り</td> <td>50,000m³未満</td> </tr> <tr> <td>50,000m³以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削積込(片切掘削は掘削のみ)の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。</p> <p>2. 土量は、地山土量とする。</p> <p>3. 施工方法は、掘削箇所の地形により「オープンカット」、「片切り」に区分する。区分については、「第Ⅱ編第1章土工②-1土工」の図3.1、図3.2、図3.3を参照のこと。</p> <p>4. 障害の有無</p> <p>①無し：構造物及び建築物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合</p> <p>②有り：掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり(例えば作業障害が多い場合)連続掘削作業が出来ない場合。掘削深さ5m以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削(溝掘り、基礎掘削)を行う場合</p> <p>5. 施工数量は、1工事当りの全体掘削土量とする。なお、数量の判定は、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削(注)6. 施工数量、破砕片除去数量」による。</p>	土質	施工方法	障害の有無	施工数量	土砂	オープンカット	無し	50,000m ³ 未満	50,000m ³ 以上	有り	50,000m ³ 未満	50,000m ³ 以上	片切掘削	—	—	岩塊・玉石	オープンカット	無し	50,000m ³ 未満	50,000m ³ 以上	有り	50,000m ³ 未満	50,000m ³ 以上	<p>3. 施工パッケージ</p> <p>3-1 掘削(ICT) ※[ICT建機使用割合100%]</p> <p>(1) 条件区分</p> <p>条件区分は、次表を標準とする。</p> <p style="text-align: center;">表3.1 掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%] 積算条件区分一覧 (積算単位:m³)</p> <table border="1" data-bbox="1303 343 1989 702"> <thead> <tr> <th>土質</th> <th>施工方法</th> <th>障害の有無</th> <th>施工数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土砂</td> <td rowspan="4">オープンカット</td> <td rowspan="2">無し</td> <td>10,000m³未満</td> </tr> <tr> <td>10,000m³以上50,000m³未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">有り</td> <td>50,000m³以上</td> </tr> <tr> <td>10,000m³未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">片切掘削</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">岩塊・玉石</td> <td rowspan="4">オープンカット</td> <td rowspan="2">無し</td> <td>10,000m³未満</td> </tr> <tr> <td>10,000m³以上50,000m³未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">有り</td> <td>50,000m³以上</td> </tr> <tr> <td>10,000m³未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">片切掘削</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削積込(片切掘削は掘削のみ)の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。</p> <p>2. 上表は、同一の施工箇所において、3D-MG又はMCバックホウ(以下「ICT建機」という。)のみで施工する(ICT建機使用割合100%)場合である。 なお、施工数量は、1工事当りの全体掘削土量により判定し、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削(注)6. 施工数量、破砕片除去数量」によるものとする。また、該当する施工箇所におけるICT建機による施工の掘削土量をその箇所の掘削土量とし、これを合計したものを全体掘削土量とする。</p> <p>3. 土砂、岩塊・玉石の掘削積込、又は土砂の片切掘削について、同一の施工箇所においてICT建機と通常建機(ICT建機を使用しない通常機種種のバックホウ)を併用して施工する(ICT建機使用割合100%以外)場合は、該当する箇所における掘削土量をICT建機使用割合に応じてICT建機による施工分と通常建機による施工分に分割し、ICT建機による施工分に上表を適用する。また、通常建機による施工分は、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削」により別途計上する。 なお、施工数量は、1工事当りの全体掘削土量により判定し、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削(注)6. 施工数量、破砕片除去数量」によるものとする。また、該当する施工箇所におけるICT建機による施工分と通常建機による施工分を合計した掘削土量をその箇所の掘削土量とし、これを合計したものを全体掘削土量とする。</p> <p>4. 土量は、地山土量とする。</p> <p>5. 施工方法は、掘削箇所の地形により「オープンカット」、「片切り」に区分する。区分については、「第Ⅱ編第1章土工②-1土工」の図3.1、図3.2、図3.3を参照のこと。</p> <p>6. 障害の有無</p> <p>①無し：構造物及び建築物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合</p> <p>②有り：掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり(例えば作業障害が多い場合)連続掘削作業が出来ない場合。掘削深さ5m以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削(溝掘り、基礎掘削)を行う場合</p> <p>7. ICT建機使用割合は、上記(注)2.又は3.の1工事当りの全体掘削土量に対する1工事当りのICT建機による掘削土量の割合である。</p>	土質	施工方法	障害の有無	施工数量	土砂	オープンカット	無し	10,000m ³ 未満	10,000m ³ 以上50,000m ³ 未満	有り	50,000m ³ 以上	10,000m ³ 未満	片切掘削	—	—	岩塊・玉石	オープンカット	無し	10,000m ³ 未満	10,000m ³ 以上50,000m ³ 未満	有り	50,000m ³ 以上	10,000m ³ 未満	片切掘削	—	—
	土質	施工方法	障害の有無	施工数量																																															
土砂	オープンカット	無し	50,000m ³ 未満																																																
			50,000m ³ 以上																																																
		有り	50,000m ³ 未満																																																
			50,000m ³ 以上																																																
片切掘削	—	—																																																	
岩塊・玉石	オープンカット	無し	50,000m ³ 未満																																																
			50,000m ³ 以上																																																
		有り	50,000m ³ 未満																																																
			50,000m ³ 以上																																																
土質	施工方法	障害の有無	施工数量																																																
土砂	オープンカット	無し	10,000m ³ 未満																																																
			10,000m ³ 以上50,000m ³ 未満																																																
		有り	50,000m ³ 以上																																																
			10,000m ³ 未満																																																
片切掘削	—	—																																																	
	岩塊・玉石	オープンカット	無し	10,000m ³ 未満																																															
10,000m ³ 以上50,000m ³ 未満																																																			
有り			50,000m ³ 以上																																																
			10,000m ³ 未満																																																
片切掘削	—	—																																																	
	<p>①施工数量区分 10,000m³の追加</p> <p>②ICT建機と通常 機械との施工 数量分割に関する 記載の追加</p>																																																		

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 掘削(ICT) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.8m3(平積0.6m3) ・「オープンカット」で施工数量50,000m3未満の場合 ・「片切掘削」の場合
	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積1.4m3(平積1.0m3) 「オープンカット」で施工数量50,000m3以上の場合
	K2	ICT建設機械経費加算額(バックホウ)
	K3	—
労務	R1	運転手(特殊)
	R2	普通作業員
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	軽油1.2号 バトル給油
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

(注) ICT建設機械経費加算額(バックホウ)は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の貸借費用である。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%] 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	ICTバックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第2次基準値2011年規制)]山積0.8m3(平積0.6m3) ・ <u>賃料</u> ・「オープンカット」で施工数量10,000m3未満、又は10,000m3以上50,000m3未満の場合 ・「片切掘削」の場合
	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積1.4m3(平積1.0m3) 「オープンカット」で施工数量50,000m3以上の場合
	K2	ICT建設機械経費加算額(バックホウ)
	K3	—
労務	R1	運転手(特殊)
	R2	普通作業員
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	軽油1.2号 バトル給油
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

(注) ICT建設機械経費加算額(バックホウ)は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の貸借費用である。なお、ICTバックホウについては、機械経費に含まれているため、ICT建設機械経費加算額は計上しない。

施工数量区分
10,000m3の追加

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
II-1-②-44	<p>4. ICT建設機械経費加算額 建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) ICT建設機械経費加算額(バックホウ) 41,000円/日</p> <p>(2) ICT建設機械経費加算額(ブルドーザ) 39,000円/日</p> <p>5. その他ICT建設機械経費等 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。</p> <p>5-1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。</p> <p>(1) 掘削(ICT)</p> $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}} \times \frac{25}{100}$ <p>(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。</p> <p>(2) 路体(築堤)盛土(ICT), 路床盛土(ICT)</p> $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.11(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$ <p>(注) 作業日当り標準作業量は「積算基準〔1 一般土木〕 県版第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。</p> <p>5-2 システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) 掘削(ICT) 対象機械: バックホウ 598,000円/式</p> <p>(2) 路体(築堤)盛土(ICT), 路床盛土(ICT) 対象機械: ブルドーザ 548,000円/式</p> <p>5-3 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合に計上するものとし、必要額を適正に積上げるものとする。</p>	<p>4. ICT建設機械経費加算額 建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) ICT建設機械経費加算額(バックホウ) 41,000円/日</p> <p>(2) ICT建設機械経費加算額(ブルドーザ) 39,000円/日</p> <p>5. その他ICT建設機械経費等 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。</p> <p>5-1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。</p> <p>(1) 掘削(ICT) ※「ICT建機使用割合100%」</p> $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}} \times \frac{100}{100}$ <p>(注) 施工数量はICT建機により施工する掘削土量とする。作業日当り標準作業量は「積算基準〔1 一般土木〕 県版第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。</p> <p>(2) 路体(築堤)盛土(ICT), 路床盛土(ICT)</p> $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.11(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$ <p>(注) 作業日当り標準作業量は「積算基準〔1 一般土木〕 県版第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。</p> <p>5-2 システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) 掘削(ICT) ※「ICT建機使用割合100%」 対象機械: バックホウ 598,000円/式</p> <p>(2) 路体(築堤)盛土(ICT), 路床盛土(ICT) 対象機械: ブルドーザ 548,000円/式</p> <p>5-3 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合に計上するものとし、必要額を適正に積上げるものとする。</p>

ICT建機を使用した掘削数量計上方法が変わったことによる変更

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

6. 施工単価入力基準表

(1) 掘削(ICT)

パッケージコード	CB210120	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	土質	施工方法	障害の有無	施工数量
	①土砂 ②岩塊・玉石	①オープンカット ②片切掘削	①無し ②有り	①50,000m3未満 ②50,000m3以上

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
 2. 施工数量は、1工事当りの全体掘削土量とする。なお、数量の判定は、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削(注)6. 施工数量、破砕片除去数量」による。
 3. J1条件で②を選択した場合は、J2条件の②は選択出来ない。
 4. J2条件で②を選択した場合は、J3、J4条件は入力する必要はない。

(2) 路体(築堤)盛土(ICT)

パッケージコード	CB210570	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業形態	土質	施工数量	障害の有無
	①敷均し+締固め ②敷均し締固め	①高含水比粘性土以外 ②高含水比粘性土	①10,000m3未満 ②10,000m3以上	①無し ②有り

- (注) 1. 土量は締固め後の土量とする。
 2. 施工数量は、ICT施工による1工事当りの全体盛土量とする。
 3. J1条件で①を選択した場合は、J2条件は入力する必要はない。
 4. J2条件で②を選択した場合は、J3条件は入力する必要はない。

(3) 路床盛土(ICT)

パッケージコード	CB210580	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	施工数量	障害の有無	
	①10,000m3未満 ②10,000m3以上	①無し ②有り	

- (注) 1. 土量は締固め後の土量とする。
 2. 施工数量は、ICT施工による1工事当りの全体盛土量とする。

(4) 掘削(ICT)保守点検

「積算基準〔1 一般土木〕 県版第1編第2章③間接工事費 2-7 技術管理費」(WB010400)により計上すること。

(5) 路体(築堤)盛土(ICT)保守点検

「積算基準〔1 一般土木〕 県版第1編第2章③間接工事費 2-7 技術管理費」(WB010420)により計上すること。

6. 施工単価入力基準表

(1) 掘削(ICT)※〔ICT建機使用割合100%〕

パッケージコード	CB210120	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	土質	施工方法	障害の有無	施工数量
	①土砂 ②岩塊・玉石	①オープンカット ②片切掘削	①無し ②有り	①10,000m3未満 ②10,000m3以上 50,000m3未満 ③50,000m3以上

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
 2. 施工数量は、1工事当りの全体掘削土量とするにより判定し、なお、数量の判定は、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削(注)6. 施工数量、破砕片除去数量」によるものとする。なお、同一の施工箇所においてICT建機と通常建機を併用して施工する場合は、両者を合計した掘削土量をその箇所の掘削土量とし、これを合計したものを全体掘削土量とする。
 3. J1条件で②を選択した場合は、J2条件の②は選択出来ない。
 4. J2条件で②を選択した場合は、J3、J4条件は入力する必要はない。

(2) 路体(築堤)盛土(ICT)

パッケージコード	CB210570	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業形態	土質	施工数量	障害の有無
	①敷均し+締固め ②敷均し締固め	①高含水比粘性土以外 ②高含水比粘性土	①10,000m3未満 ②10,000m3以上	①無し ②有り

- (注) 1. 土量は締固め後の土量とする。
 2. 施工数量は、ICT施工による1工事当りの全体盛土量とする。
 3. J1条件で①を選択した場合は、J2条件は入力する必要はない。
 4. J2条件で②を選択した場合は、J3条件は入力する必要はない。

(3) 路床盛土(ICT)

パッケージコード	CB210580	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	施工数量	障害の有無	
	①10,000m3未満 ②10,000m3以上	①無し ②有り	

- (注) 1. 土量は締固め後の土量とする。
 2. 施工数量は、ICT施工による1工事当りの全体盛土量とする。

(4) 掘削(ICT)保守点検

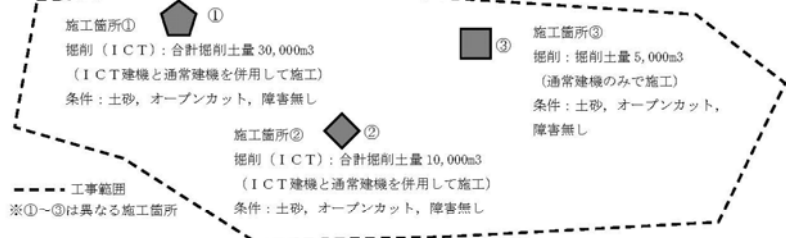
「積算基準〔1 一般土木〕 県版第1編第2章③間接工事費 2-7 技術管理費」(WB010400)により計上すること。

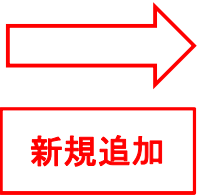
(5) 路体(築堤)盛土(ICT)保守点検

「積算基準〔1 一般土木〕 県版第1編第2章③間接工事費 2-7 技術管理費」(WB010420)により計上すること。

施工数量区分
10,000m3の追加

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
Ⅱ-1-②-47		<p>7. 参考資料(掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%])</p> <p>7-1 ICT建機使用割合100%以外の場合における積算 土砂、岩塊・玉石の掘削積込、又は土砂の片切掘削について、同一の施工箇所においてICT建機と通常建機を併用して施工する(ICT建機使用割合100%以外)場合は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) 施工数量 施工数量は、1工事当りの全体掘削土量により判定し、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削(注)6. 施工数量、破砕片除去数量」によるものとする。なお、該当する施工箇所におけるICT建機による施工分と通常建機による施工分を合計した掘削土量をその箇所の掘削土量とし、これを合計したものを全体掘削土量とする。</p> <p>(2) 積算 該当する施工箇所の掘削土量をICT建機使用割合に応じてICT建機による施工分と通常建機による施工分に分割し、以下のとおり計上する。 【ICT建機による施工分】 施工パッケージ「掘削(ICT) [ICT建機使用割合100%]」を適用し、該当する施工箇所における掘削土量(ICT建機による施工分と通常建機による施工分の掘削土量の合計)にICT建機使用割合を乗じて算出した値をICT建機による施工分の掘削土量として計上する。なお、ICT建機使用割合を乗じて算出した値は、四捨五入した数値とし、数値は「積算基準〔1 一般土木〕 Ⅱ版第1編第5章数値基準等④数値基準」によるものとする。 【通常建機による施工分】 該当する施工箇所における掘削土量からICT建機による施工分の掘削土量を差し引いて算出した値を通常建機による施工分の掘削土量とし、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削」により別途計上する。</p> <p>7-2 積算例(ICT建機使用割合100%以外の場合)</p>  <p>※①～③は異なる施工箇所</p> <p>【ICT建機使用割合25%の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工数量の判定 施工箇所①: 30,000m³ + 施工箇所②: 10,000m³ = 40,000m³ < 50,000m³ よって、施工数量は「10,000m³以上50,000m³未満」を選択する。 施工箇所③: 通常建機のみによる施工であるため、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削」による。 ・積算 施工箇所①: (「掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%]、土砂、オープンカット、障害無し、10,000m³以上50,000m³未満」の単価) × 7,500m³ + (「掘削、土砂、オープンカット、押土無し、障害無し、10,000m³以上50,000m³未満」の単価) × 22,500m³ 施工箇所②: (「掘削(ICT)※[ICT建機使用割合100%]、土砂、オープンカット、障害無し、10,000m³以上50,000m³未満」の単価) × 2,500m³ + (「掘削、土砂、オープンカット、押土無し、障害無し、10,000m³以上50,000m³未満」の単価) × 7,500m³ 施工箇所③: 通常建機のみによる施工であるため、「第Ⅱ編第1章土工②-1 3-1掘削」による。



平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁	改定前	改定後(平成30年7月30日以降適用)
Ⅱ-2-①-1	<p style="text-align: center;">第2章 共 通 工</p> <p>① 法 面 工</p> <p>①-1 法面整形工</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。</p> <p>1-1 適用出来る範囲 (1) 土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Ⅰ・Ⅱ、中硬岩、硬岩の法面整形</p> <p>1-2 適用出来ない範囲 (1) 3D-MG及びMCバックホウによる法面整形</p> <p>2. 施工概要</p> <p>2-1 盛土法面整形工 法面表層部を締め整形することを盛土法面整形工という。</p> <p>2-2 切土法面整形工 法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。</p>	<p style="text-align: center;">第2章 共 通 工</p> <p>① 法 面 工</p> <p>①-1 法面整形工</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。</p> <p>1-1 適用出来る範囲 (1) 土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Ⅰ・Ⅱ、中硬岩、硬岩の法面整形</p> <p>1-2 適用出来ない範囲 (1) 3D-MG及びMCバックホウによる法面整形</p> <p>2. 施工概要</p> <p>2-1 盛土法面整形工 法面表層部を締め整形することを盛土法面整形工という。</p> <p>2-2 切土法面整形工 法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。</p>

平成29年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕 第Ⅱ編共通工 改定対照表

頁

改定前

改定後(平成30年7月30日以降適用)

①-2 法面整形工(ICT)

1. 適用範囲

本資料は、ICTによる盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1) 3D-MG及びMCバックホウによる土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Ⅰの法面整形

1-2 適用出来ない範囲

(1) 3D-MG及びMCバックホウ以外の法面整形

(2) 現場制約がある場合

現場制約:「第Ⅱ編第2章共通工①-1法面整形工 3. 施工フロー 図3-1(注)1」による。

2. 施工概要

2-1 盛土法面整形工

法面表層部を締固め整形することを盛土法面整形工という。

2-2 切土法面整形工

法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。

3. 施工フロー

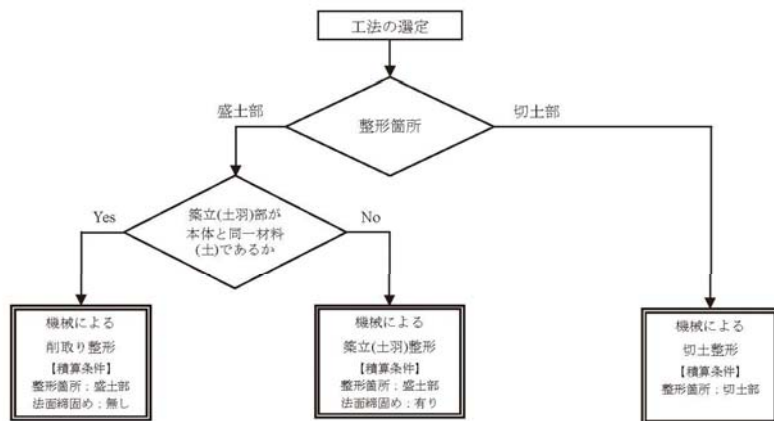


図3-1 法面整形工(ICT) 工法選定フロー図

(注) 盛土部の施工フローは、「第Ⅱ編第2章共通工①-1法面整形工」の図3-2を、切土部の施工フローは、図3-3を参照のこと。

①-2 法面整形工(ICT)

1. 適用範囲

本資料は、ICTによる盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1) 3D-MG及び又はMCバックホウによる土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Ⅰの法面整形

1-2 適用出来ない範囲

(1) 3D-MG及び又はMCバックホウ以外の法面整形

(2) 現場制約がある場合

現場制約:「第Ⅱ編第2章共通工①-1法面整形工 3. 施工フロー 図3-1(注)1」による。

2. 施工概要

2-1 盛土法面整形工

法面表層部を締固め整形することを盛土法面整形工という。

2-2 切土法面整形工

法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。

3. 施工フロー

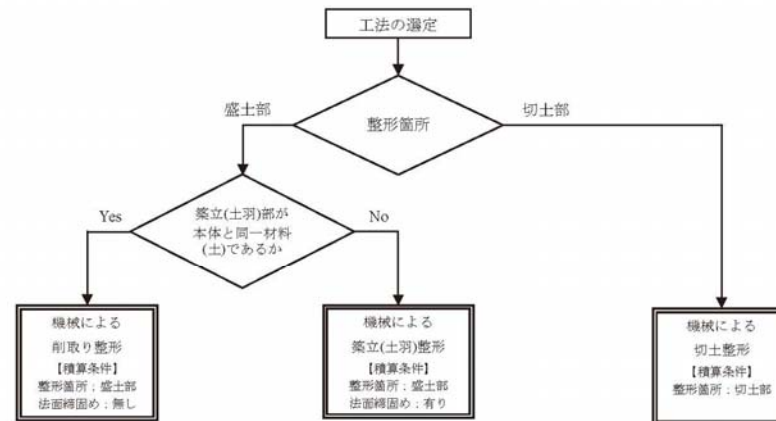


図3-1 法面整形工(ICT) 工法選定フロー図

(注) 盛土部の施工フローは、「第Ⅱ編第2章共通工①-1法面整形工」の図3-2を、切土部の施工フローは、図3-3を参照のこと。

Ⅱ-2-①-7